

2020年度

三重大学 人文学部法律経済学科

## 特殊講義 「協同組合論」



＜第12回(オンデマンド)＞

### 「生協運動の現在と未来」

本田 英一／日本生活協同組合連合会 代表理事会長

第12回(12月21日)：受講46名(市民開放授業一般受講者等を含む)

生協は組合員が、自らの暮らしをよりよくしていくために、出資・利用・運営参加する組織である。組合員の暮らしをよりよくするには、社会そのものをよくすることが必要である。社会全体の暮らしがよくなるよう組合員自身が行動することに協同組合の本質がある。協同とは、一人ではできないことも、仲間と心や力を合わせることで出来るようになることである。

#### 【第12回／講義の要旨】

- ・協同組合は、共同で所有し民主的に管理する事業体を通じ、共同の経済的・社会的・文化的ニーズと願いを満たすために自発的に手を結んだ人々の自治的な組織であり、生協は、消費者・市民の願いや要望を実現するために事業活動を通じて消費者・市民が自発的・自主的に助け合う組織である。人と人の結びつきによる非営利の協同組織である。
- ・協同組合運動の始まりであるイギリスのロッチデール公正先駆者組合は、労働者の暮らしをよくするために取引は市価、品質の純良さ、現金販売、一人一票、政治的・宗教的中立を原則とした。現在は、協同組合間協同やコミュニティへの関与など協同組合の価値を実践に移すための協同組合7原則がある。
- ・日本の生協運動は、大正から昭和にかけて労働運動や、農民運動、普通選挙運動など社会をよくするために尽力した賀川豊彦に始まる。しかし、戦争によって多くの組合が解散させられた。戦後、生協は平和を大切に、それぞれ時代の社会問題や、組合員の願いに事業と活動で対応してきた。近年では、少子高齢化や地域のつながりの希薄化を背景とし、買い物弱者、高齢者、孤立しがちな子育て家庭支援が課題である。また、災害や所得格差の拡大を背景に、被災者支援、生活困窮者支援も課題となっている。
- ・生協のビジョンには、「つながり」「つながる」という共通のワードがある。人と人のつながりが希薄化してきている問題に、生協どうし組合員どうしが手を取り合い、それぞれの地域で取り組んでいくことが大事である。全国の生協で、暮らしを支えるインフラとして地域社会への貢献や、買い物が不便な地域の組合員ニーズ、行政等との地域見守り協定や包括連携協定、子育て家庭や高齢者・障がい者への支援、社会的弱者と貧困の問題、生活困窮者への支援、奨学金制度、地域防災・減災、被災地支援、環境・エネルギー、平和、エシカル消費の推進など事業と活動で社会的な取り組みがすすめられている。
- ・2018年に、日本協同組合連携機構(JCA)が設立された。協同組合間協同がすすむよう力を寄せ合っていきたい。

## 第12回講義／受講生のレポート（抜粋）

- ・今回の講義は、今までの生協の講義の総集編のような部分があり、復習しながら生協に関しての知識をより深めることができたと感じている。他の講義でもあったが、やはり私が感じる生協の一番の強みは、営利企業や公的機関がなかなか手を加えることができない問題や課題に、解決できるだけの力と行動力がある点だと思います。だからこそ、今回の講義にもあったように、生協が子育て家庭を事業・活動の両面で支援していることや、社会的に弱い人々・貧困問題への取り組みを行なっていることは、本当に素晴らしいことだと思うし、もっと知りたい、もっと学びたいと感じる。
- ・生協の活動は組合員の暮らし、社会全体をよくすることを目標としていることから、生協が事業や活動をすると、社会的な取り組みを行うことにつながるが多くなると感じました。また、生協の総事業高は社会全体でみると決して多くはないが、事業や活動の果たす社会的な役割は総事業高では計り知れないものがあると思います。
- ・事業・活動を通じた社会的取り組みが実施されており、ふだんの暮らしを支えるインフラとして地域社会に貢献するものから、高齢者・障がい者・生活困窮者・子育て家庭への支援といった多岐にわたる事業・活動が展開されていることが分かりました。その事業・活動の中には奨学金制度改善など私たちに関係していることもあり、奨学金制度改善に向けて生協が行動していることは知りませんでした。今までの講義でも生協について学び、やはり生協というのは、私たちの生活に密接に関わっており、組合員の暮らしへ貢献することを第一に考えている組織であると感じました。
- ・今回の授業を聞いて、ますます、生協・協同組合全体の事業が多岐にわたって行われているということが分かりました。山間部や過疎地域にも配慮してサービスを届けるという観点からも利益重視ではなく、消費者の満足重視であるということが再確認できました。また、「つながり方」というのも考えさせられました。ただ単に書面上でつながりを提示するというのではなく、どのようにお互いが考えれば、国民全体の生活がよくなっていくのか、ということを考えないといけない時代になったと考えます。
- ・今回の講義を通して、生協は「人とのつながり」をととても重視していると感じました。これは、今までの協同組合の講義でも共通して言えることで、協同組合の活動にどれだけ人との関わりを重視しているのかが目に見えて感じた。その中で、協同組合同士の関わりも大切になっていくと思うので、それぞれ根拠法が違うが、根本となる組合員や地域の人たちの暮らしを良くするという思いが同じなので、あとは、どう上手くすりあわせていくのが重要だと感じた。また、生協の幅広い活動にととても驚かされました。生協がこれからの地域活性化を担っていく大きな存在となっていくように感じました。きっとこれ以外にも様々な活動を行っていると思うし、ウィズコロナの時代になってまた新たな活動が始まると思うので、そこにも注目していきたい。
- ・実際に行っている様々な事業を具体的に紹介していただいたことで、とても幅広い活動をしているということを知り、とても興味深かったです。特にコロナウイルスの流行によって生協の良さである人とのつながりを生かすことが難しいと思いますが、実際に会うということ以外の方法でもネットワークを作ることも可能であると思うので、生協はさらに活動領域を拡大していくように感じました。また、生協に支援してもらっている地域の人々がもつ悩みやニーズは様々で普段の生活の食事や買い物などの支援や、子どもや高齢者、貧困者への支援、さらには地域の枠組みを超えた環境問題や災害時の問題などと幅広い活動が必要であることが感じられました。日本の協同組合には共通の法律がないことから、生協だけでなく協同組合全体が共に協力しながら社会を支援することで、それらの事業や活動の力が最大限発揮されるのではないかと感じました。

- ・今回の講義で、時代に寄り添いながら成長し、発展を遂げていく、生協の可能性を感じることが出来ました。福祉や医療だけでなく、環境、エネルギーや平和の活動など幅広い分野で活動を行っており、社会への貢献度がすごいと思いました。利益を追求する株式会社の存在が全く必要ないとは思わないが、それだけではやっていけない時代になってきていると思います。そこで、生協という組合員の理想に近づいた運営をするような存在がいることは大切なことだと思います。コロナ化を経てこれから、生協がどのように変化していくかに注目していきたいと思います。
- ・企業は自分の強みの部分に集中的に資源を導入することが利益（企業の目的）につながるが、生協はさまざまな事業領域に進出することで総合力を発揮し、事業高が増加していることがすごいと思った。生協がさまざまな事業領域に進出することは進出先の私企業とは競争関係になることを意味する。私企業は利益につながる消費者の獲得のために、低価格商品売って多くの消費者の興味を向けさせる。それによって生協を利用する人は減少すると考えられるが、事業高が増加しているということは、生協はそれだけの利用者や生協に対する信頼（安全性、品質など）が確立されていることが大きな要因であると感じた。事業・活動を通じた社会的取り組み（16項目）のうち、「買い物が不便な地域のニーズにこたえて」とあったが、この地域・高齢者こそ、私企業が取り込めない消費者であると感じた。私企業に対して生協は山間部や離島も含んだ広い地域に食材を配達しており、私企業のネットショッピングにはない、組合員（消費者）とのリアルでのつながりが生協の大きな強みであると思った。宅配事業のインフラを活用した「地域見守り活動」で市町村と協定を結んでいる生協があるという話があったが、行政と連携することで、健康で文化的な最低限度の生活を維持できるまでには到達できると考えられるため、経済的貧困者の底上げが期待できると感じた。「フードバンク活動等への取り組み」という項目があったが、子ども食堂において、難しい問題があると感じた。家庭内で十分な食事ができていない子どもは、食事面だけではなく、外出機会や情報収集能力が一般的な経済力の家庭に比べて不足していると考えられる。現在はSNSで情報発信をすることが多いが、貧困家庭では家にパソコンやスマートフォンがない場合が多い。そのため、どれだけデータ上で情報発信しても、その家庭の子どもは情報を得ることができない。この問題を解決するために私は学校で子ども食堂の情報を発信する機会を設けることを提案する。前述したように、市町村と提携した生協もあるため、その地域の公立学校は生協の状況を発信しても大きな問題にはならない。また、生協は中立であるため、みんな（特に組合員）が幸せになることができる権利を持っている。よって、学校で子ども食堂の情報発信をすれば子どもは情報を得て子ども食堂に行き、あたたかいご飯を食べることができる。このような経験から、子ども食堂や生協に関心を持ち、成長すれば生協に恩返しをしたいと考える子どもも現れるはずであり、これが新たな組合員や生協活動の継続・継承につながると考えられる。
- ・それぞれの時代の組合員の願いに、事業と活動で対応というところで、生協がカラーテレビ値下げ運動や不当な値上げ・もの隠しを行う企業を告発したことなど、生協の活動としてイメージしていなかったようなことにも取り組んでいて驚いた。総合力の発揮というところで、会社などは営利を目的としているので事業をあまり広げすぎるとリスクになるが、生協などは組合員の暮らしを良くしていくということで事業拡大が問題にならないというのはメリットであると感じた。大規模災害時などに生協が支援物資を届けることを行っていたということは知らなかった。車の入れない山腹や離島にまで届けているということに驚き、営利を目的とするような企業にはできないことであると感じた。

以上